

すえつぎだより

編集
安東量子
鈴木伴栄
門馬麻衣子

放射線の理解
を深める地域
モデル事業

「すえつぎだより」
第2号、出来上がりしました。



春を告げる4月、見渡神社のお祭り。田植えで忙しい5月、今年も末続駅のつつじが見事な花を咲かせました。いつもより早くアジサイが咲き始めた6月、多くの人の目を楽しませて、アジサイが終わりを迎えた7月。山に目を向ければ、ねむの木には可憐な花が咲き、季節はもう夏。

今年も咲きました！



「今年の紫陽花は、いまひとつ」と言いながら、今年も美しく咲いた遠藤豊さん宅の紫陽花。



5月から7月にかけては、1年で最も色鮮やかな花々に末続が覆われる季節です。
末続駅のつつじも今年も明るく花開きました。常磐線の本数も、少しずつ増えて、今は、一日に上り13本、下り14本が走ります。きつと、電車の中から楽しんだ人もいたことでしょう。

個人線量結果説明会

6月21日、好間町の福島県労働保健センターいわき好間コミュニティ健診プラザで放射線内部被ばく測定検査機(WBC)ホールボディーカウンタ)による検査が行われました。地区の皆さん47名が受診。6月30日、末続集会所で福島県立医大宮崎真先生によるWBCの結果説明と末続地区内100名に配られたDシャツルによる4月5月2ヵ月分の個人外部被ばく量測定結果説明も行われました。



食品測定日(火)にあわせて、宮崎先生にご来訪頂きました。自分の測定結果を手にとり和気あいあい。

この日は、春の山菜がおいしい時期ならではの質問が出されました。宮崎先生は「WBC測定で食生活が見えてきます。どこで作られ、どこで採ったものを食べたか、WBC測定をしながら、ゆつくり食べるものを自分で確認していくことが大事です。今回の検査結果を見ても、食生活を大きく変える必要はありません。内部被ばくの放射線量は、食べなければ下がっていきます。下げることが目標でしたら、市販品や自家耕作品だけを食べていけば、簡単に達成できます。けれど、生活がそれでは味気ない、ゆつくりでも自然からの恵みを取り戻したい、と思う方もいらっしゃるでしょう。WBC測定はそういういった方々に少しばかりのお手伝いができます。これからもうまく使ってください」と話しました。

「食品検査、Dシヤトルによる個人線量の計測、WBCによる検査そして宮崎先生による個人相談まで、科学的に必要なものは地区にすべて揃っています。」すえつぎだより発行にあたりコメントをいただいた国際放射線防護委員会のジャック・ロシヤールさんの言葉です。ロシヤールさんと宮

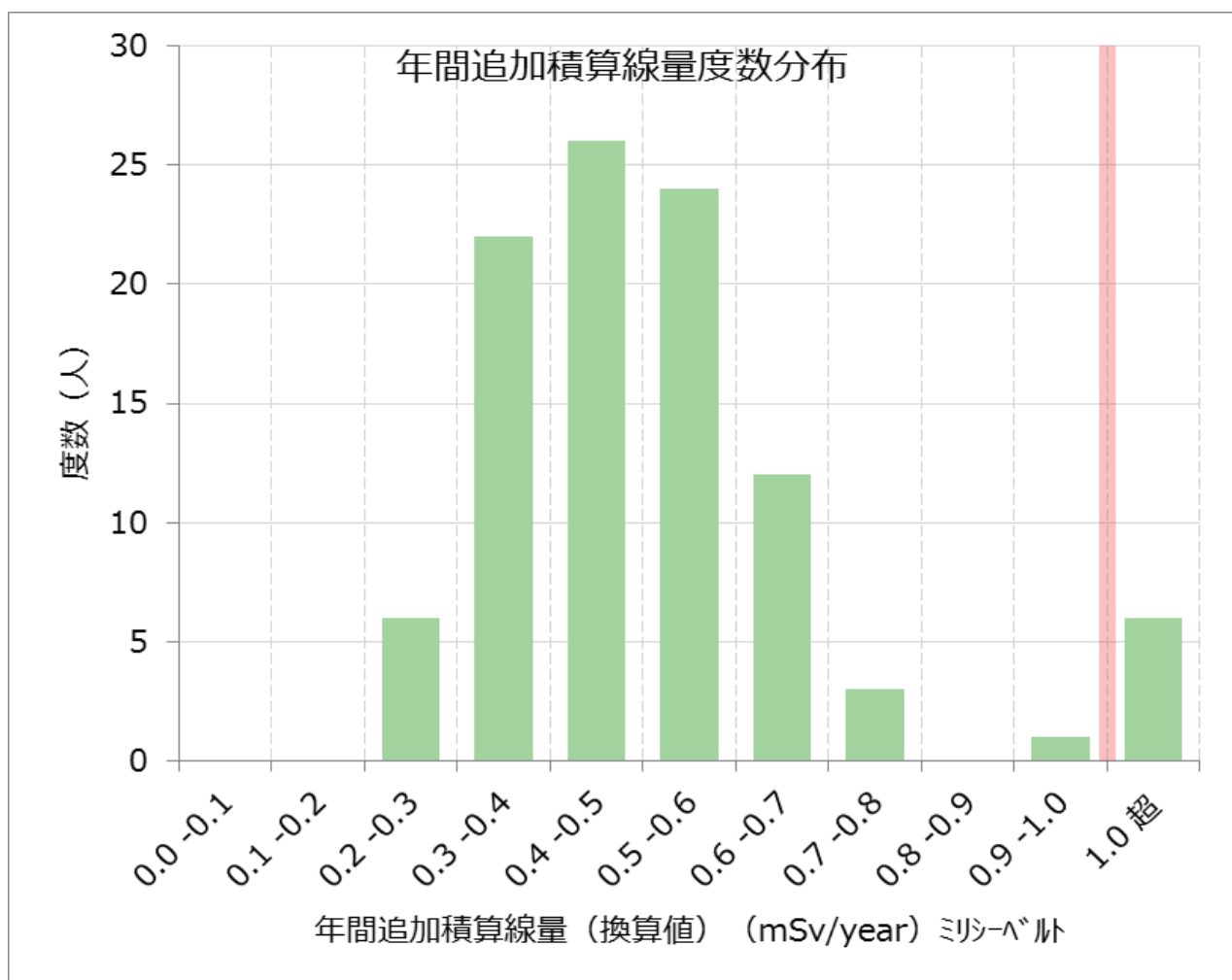
崎先生との共通点、「数値に踊らされないこと。自分が置かれた今の状況を把握すること。続けること」が放射線の理解を深める上で必要なのだと改めて感じました。



参加者の皆さん、Dシヤトルの結果、WBCの結果のこと、思い思いに宮崎先生に尋ねていらっしやいました。また、測定日にあわせて宮崎先生来訪日をつくりましますので、お気軽にご利用下さい。

末続地区全体のDシヤトル測定結果

4月から5月の2ヶ月分のデータから年間の総線量を推測し、そこから自然被ばくバックグラウンド(千代田テクノルガラスバッジと同様の年0.54ミリシーベルト)を引いた数値をグラフ化したもの。測定に参加して下さった皆さんの全体の様子わかります。結果についてさらに詳しく知りたい方は、測定日に集会所においてになるか、門馬、もしくは区長にお尋ね下さい。



4月から7月の 食品測定の結果

4月から7月14日現在まで、毎火曜日の測定日に末続集会所に持ち込みがあった食品の測定結果です。



マツモ、ワカメ、カジメなど海藻の持ち込みもありました。

- ▼4月7日 来所数 0名
- ▼4月14日 4名来所
たけのこ2件・山ウド・わらび…クリア

- ▼4月21日 8名来所
山ウド・わらび4件・タケノコ4件・春菊・タテフキヤマセリ・マツモ…クリア
生タケノコ1件…15Bq/kg
- ▼4月28日 3名来所

わらび・米ぬか・みつば・タケノコ(水煮)・こしあぶら・にら・チンゲン菜・夕食二食分…クリア

- ▼5月12日 2名来所

キャベツ・ネギ…ぼう(茨産)…クリア

- ▼5月19日 来所数 0名

- ▼5月26日 2名来所

新たまねぎ・フキ…クリア

- ▼6月2日 来所数 0

- ▼6月9日 来所数 0

- ▼6月16日 8名来所

梅5件・きゅうり・にんにく・レタス・大根…クリア

根…クリア

- ▼6月23日 3名来所

青梅・キタアカリ・メークイン…クリア

カラタケ 100Bq/kg

- ▼6月30日 9名来所

ナス・ワカメ・カジメ・グリーンピース・じゃがいも2件・梅2件・きゅうり3件・たまねぎ2件・インゲン2件…クリア

- ▼7月7日 6名来所

じゃがいも2件・ナタマメ・なす・きゅうり・しそ…クリア

- ▼7月14日 1名来所

すいか…クリア

り…クリア

- ▼7月14日 1名来所

すいか…クリア

相談員から

山菜の時期は毎回盛況で、昨年別のところでも測ってみた時と比べると、タケノコの数値が下がったようだ、という声が多く聞かれました。実際に測ってみて、ご自身の持っていたイメージに違いはありませんか。気になるときは測ってみて、みなさんが旬のものを、美味しく頂けるようになると思います。

野菜が出始める時期が重なると、来所される方が多くなり、待ち時間をいただきご迷惑をおかけすることもあります。午後は比較的空いておりますので、よろしければご利用くださいね。

(門馬)



混み合う測定の日、旬の山菜や野菜で、いっぱいになります。余った野菜は、門馬と安東がありがたく頂いて帰っています。ごちそうさまです。

末続のできごと

見渡神社例大祭

4月4、5日、春到来を告げる末続見渡神社の例祭が行われました。海岸近くの神社から出された神輿が、上のお仮屋へ運ば



れ翌日の渡御に備えます。

末続集会所では、多くの住民が集まり「花」作りが行われました。本祭りの5日は朝からあいにくの雨模様。「花」が末続を歩く姿は見られませんでしたが、神輿がお仮屋から海岸までを練り歩きました。

今では、こうした地元だけの手作りのお祭りは珍しいということ、お祭りのことを知った方が遠方から、写真撮影に訪れ、雨の中、3名のカメラマンさんが一日御神輿に同行して撮影していただきました。

「皆で協力して祭りを続けていこう。そして子ども神輿が練り歩く姿が見た

いねえ」と高木宏区長。祭りが終わり、見渡神社の本殿横に建つ社に収まられた神輿。その横には担ぎ手が現れ出番が来る日を待つかの様に子ども神輿が鎮座していました。



あいにくのお天気の中、堤防工事中の海岸ちかくを練り歩く御神輿。今年は、担ぎ手の平均年齢も下がって、足取りも少し軽やかになりました。

防災集団移転団地の今

津波により大きな被害を受けた末続地区。昨年12月17日に竣工式が行われた集団移転先となる末続防災集団移転団地では3月から2軒の新築工事が行われています。一軒一軒と家が建ち、一家族一家族が末続に戻られる日も遠くはないようです。



ツツジの時期に、末続駅方向から見える建築中の団地の建物。団地の向かいの斜面のツツジも満開でした。



紫陽花の時期に、国道六号から見る集団移転団地。六号脇斜面のアジサイが、移転団地からはとてもよく見えます。

復旧復興工事の進み具合

末続地区内の津波被災地跡で行われている復旧復興工事。海岸堤防工事、末続川の護岸工事、地盤のかさ上げ工事に加えて県道の拡張と末続川に架かる橋の架け替え工事が進んでいます。

県道の拡張整備に向けた橋の架け替え工事は今年末に完成予定。末続川の護岸堤防とかさ上げ工事も進み、今年度中に一部が完成予定です。来年度以降も河川堤防工事は引き続き行われ、海岸堤防の工事も早期完成を目指し工事が進められています。

日一日と工事が進む堤防工事。景色が見るたびに変わっています。



架け替えられる末続橋の橋脚が姿を見せました。周囲の地面も、橋脚の高さまで地面がかさあげされることになりま。風景が変わります



堤防工事作業中。これからの暑い時期、作業員の皆さんも大変な時期になります。安全第一に、工事を進めて下さいね。



「壊れた河川堤防を直しています」の看板。工事作業車両が通りますので、近辺を通るときには、ご注意下さい。

末続地区の皆さんへ

■「久之浜・大久地区復興グラウンドデザイン」においても、策定会議の中で跡地利用について話し合いが持たれました。鎮魂のためのメモリアル公園、多くの人に利用してもらおうためのパークゴルフ場などのレクリエーション施設、農業水産業の施設など様々な意見が出されました。

「すえつぎだより」創刊号においてもお願いしたように、津波被災跡地をどのようにに活用するか市とも協議を進めています。末続の未来のため、跡地利用をどのように考えるか、皆様のアイディアやご意見を区長までお寄せ下さい。

■前号で紹介したように毎月第一日曜日に、福島ボランティアネットワークの皆さんが、末続地区の草刈りをしてくださっています。おかげさまで、駅周辺、国道六号周辺の景観が美しく保たれ、今年も紫陽花、ツツジを楽しむことができました。

一緒に作業する人をお待ちしています。毎月第一日曜日午前九時に末続駅集合です。

末続のみなさん、こんにちは

今回、ご紹介するのは、フランスからのお客さま、ジャン・クリストフ・エドウィンさんです。(写真後ろ・左から3人目)

前号でご紹介したジャック・ロシヤールさんとのご縁で末続にいらつしやいました。ロシヤールさんたちの所属する



ICRP(国際放射線防護委員会)が福島県内で平成23年年からずっと開いている「ダイアログセミナー」のウェブサイトを制作するために、福島県内を取材訪問です。

エドウィンさんは、フランス北部ノルマンディー地方のお生まれ。20年ほど前に東京に数年間仕事で滞在したことがあるそうです。その時に日本語を覚えたとのこと、流暢に日本語を話されるのにはビックリです。お話しを伺うと、フランス語はもちろんですが、英語、日本語、ドイツ語の他にも数カ国が使えるのだそうです。

末続に取材に訪れた日は、木曜日、ちょうど踊りの練習の日でした。同行したカメランさんが、踊りを練習している様子を熱心に撮影していかれました。事前にお知らせしていない突然の取材だったので、皆さん、着物を着てないのが残念!と口々に仰っていました。最後にみなさんと揃って記念撮影です。

エドウィンさんが作っているウェブサイトは、日英仏3カ国語で紹介されることになっています。つまり、取材された写真や動画が使われると、世界で紹介されるということですね。

エドウィンさんは、この後、末続の風景や畑仕事の様子も撮影していかれました。ウェブサイトに今年12月頃に完成する予定です。またここでもお知らせします。

末続のごはん

毎年、裏山の美しい紫陽花を楽しませてくれる遠藤正子さんのごはんにお邪魔してきました。

この日のメニューは、豚肉の焼肉、タマネギの酢づけ、キュウリとカニかまのキムチ味マヨネーズ和え、キュウリの浅漬け、温野菜サラダに梅味噌ドレッシング、コンニャクの煮付け、

ナスのピリ辛炒め煮。そして、お父さんの晩酌用ピスタチオ。夫婦2人だから簡単



に済ませちゃう、と言いつつ、自宅でとれた季節の野菜いっぱい、彩り鮮やかなメニューです。

タマネギの酢漬は、東京から紫陽花を見学に来たお客さんたちが訪問した際に、美味しい!と大絶賛でした。

すえつぎのりしーとーく

第二回 新妻 ハツ子さん



震災前の生活はどのようでしたか？

「七人家族で暮らしていて、生業は原木シイタケの生産と販売でした。シイタケ農場は二町歩の広さがあって、年間で三十キログラムのケースで六十個の量を生産していました。十二月から三月にかけてがシイタケの最盛期で、選別は五月、出荷が六月、家族総出で毎日シイタケとともに暮らしていたようなもの。子供が小さかったときに植菌(ホダ木に穴をうがち、そこにシイタケの菌を植える)をさせたなら、面白がつてやっていた。長男が生まれた昭和三八年からシイタケ農家を始めたから、五〇年近くやっています。」

「シイタケとともに歩んだ人生ですね。七人家族ということですが、今はご主人とお二人だけでお過ごしなのですね。震災のときからのことを教えて下さい。」

「三月十一日は自宅にいて、ここは海からは離れているので津波がきたことはわからなかったです。電気も水道も止まったけど、農業で使う発電機があったので、それで電気をつけて、普段は使うことのなかった井戸水も、発電機と電動ポンプでくみ上げることが出来たので、初日からそんなに困らなかつた。三日くらいして、地区の人たちはみんなそれぞれ避難したので、うちも、ということで、好間に住む妹の自宅に避難しました。でも、日中は好間だけど、夜になつたら末続の自宅に帰ってきていた。それで、次に原発が爆発したとき(三月五日)に、弟の家が郡山だったのでそちらに避難して。六部屋に三家族がいるような状況でした。」

「私たち家族も三月二六日から郡山に避難したので、もしかしたら、どこかですれ違っていたかもしれませぬね。郡山ではどうされましたか？」

「ライフラインは向こうでは大丈夫だったし、美味しいものも食べたし(※ここでご主人と美味しいパン屋の行列に並んだ話で

盛り上がる)。病院に薬をもらいたくて行ったら、最初にまず放射能の検査をしてくださいと言われて(※表面汚染の検査)、それを受けてから薬をもらえました。」

「そういえば、私たち家族も、浜通りから避難してきた人は放射能の検査をしてくれと言われて、体育館に行つて表面汚染の検査をしました。郡山にはしばらくいたのですか？」

「向こうには一カ月くらいいました。でも、四月には夫婦二人で末続の自宅に戻ってきました。田植えの準備で種もみをうるかしたりしなくてはいけなかつたし。その頃には電気も水道もガスも使えた。私たちくらいしか帰ってきてる人はいなくなつたし、その年の四月に田植えをしたのも私たちだけ。おかしな人だと思われたんじゃないか。」

「震災の年の四月に、田植えを。まだ自主避難要請の解除はされていなかった時ですね。生業のシイタケは、どうだったでしょうか。」

「県から言われて、ホダ木を十万本、処分しました。捨てたり焼いたりできないから、大きな穴を掘つて埋めて。すでに乾燥してあつたシイタケも、売れないからと言われ

て、処分しましたよ。生活の糧だったけど。」

「十万本…。乾燥シイタケも、震災前のもので、放射性物質が出ることはないのに、ですか？」

「そう、でもそうしろと言われたから。それで食べてきたのに、情けない話だけど。震災の年に生のシイタケを測ったら四五〇 Bq/Kgで、(測りに行った)久ノ浜支所の人に食べるかと聞いたら、食べると言われたから、一かご、置いてきました。当時は暫定基準値五〇〇 Bq/kgだったからね。でも今は一〇〇 Bq/kgで。」

「あの基準値はどうかならないか、と私も個人的に色々思うところがあります。」

「今年の生シイタケは四〇 Bq/kg だったよ。」

「そうなんですね！こちらのシイタケは厚みも味も香りも抜群だと思うので、たくさん食べたいし、たくさんの方たちに食べてもらいたいです。これからの希望などは、ありますか？」

「若い人たちに戻ってきてもらえるといいな、と思います。今は草がぼうぼうで手入れされてないところもあるし、小さな子供も少ないし。それと、ここらで採れた農産物をもっと食べてもらいたい。」

「ほんとうにそうですね。どうも、ありがとうございました。」

(聞き手・門馬麻衣子)

末続駅の夏仕度

いつも「末続地区振興クラブ」の皆さんが手入れして下さいされている末続駅のお花たちも、朝顔に植え替えられて、夏仕度です。先日東京から電車ですらつしやつたお客さ



んも、きれいに手入れされている駅の様子をすっかり気に入られていました。季節の花々をいつもありがとうございます。

これから暑い時期、お手入れも大変になりますが、人間も植物も暑さに負けないよう、元気で乗り切っていきたいですね。

編集後記

「末続のごはん」で登場していただいた遠藤正子さんにお話しを伺った時、「集会所にいつでも測りにいけると思ったら、これまで作っていなかった種類の野菜も、気軽に作れるようになった」と話して下さいました。

測定日は、お天気によって混み具合が違いますが、測定に来たついでに皆さん、お喋りをしていかれます。持ってきた野菜のでき、育て方から料理方法、その合間に放射能の話題がまじります。笑い声と喋り声が途切れません。これどうかな、ちよつとだけ気になるな、そんな時に気軽におこし頂いて、生活を豊かにするために利用して下さい。

測定結果もファイルに記録してありますから、結果を知りたい方もおいでになってみてください。

(安東)